

## 第2回高齢者支援部会議事録

日 時:平成22年2月24日(水)20:00

場 所:市役所庁舎 10階 第5A会議室

### ●会議次第

#### 1. 開 会

#### 2. 議 題

(1)第1回会議の議事録の確認について

(2)平成21年度施策の実施状況について

(3)平成22年度予算について

(4)その他

#### 3. 閉 会

### ●出席委員

・坂井委員(部会長)、樋渡委員(副部会長)、中川委員、後藤専門委員、林専門委員、須賀専門委員、菅原専門委員

欠席:安達委員、畠山専門委員

### ●事務局:

高齢者福祉課:大谷課長、小山補佐、藤田総合相談窓口担当課長補佐、金田主査

介護保険課:鈴木課長、栗山管理担当課長

### ●議事録

#### ○事務局

それでは高齢者支援部会を開催させていただきます。坂井部会長、よろしくお願いいたします。

#### ○部会長

それでは、さっそく会議を始めます。

議題の1番目「第1回会議の議事録の確認について」です。すでに各委員あて送付されておりますが、何かご意見等ありますでしょうか。なければ、議事録は確認をされました。

次に、議題の2番目の「平成21年度施策の実施状況について」と議題の3番目の「平成22年度予算について」を一括して事務局から説明願います。

## <事務局説明>

### ○部会長

いまの説明について、何かご意見・ご質問はございますか。

### ○委員

資料1で、6ページの認知症サポーター養成講座が9回。10ページの認知症高齢者対策推進員の認知症サポーター養成講座は20回。この違いは何か。

### ○事務局

6ページは地域包括支援センターでも認知症サポーター養成講座を行っており、それが9回。10ページは、市と包括両方合わせた合計。

### ○委員

広報に出しているのか。

### ○事務局

広報に掲載している。開催場所は保健福祉センター。現在は490人くらい。

### ○委員

受講されるのは、どういう方か。

### ○事務局

認知症の方を家族に持っている方。将来介護をすることとなったときに知識を入れたいという方。介護事業所、グループホーム等で働いている方。平成22年度はそういう文化の講座を広げていきたい。少しでも皆さんに理解していただければ、その方への接し方もスムーズにできてくるのかなど。

### ○部会長

介護する人のためばかりではなく、自分自身のために知っておくと、少し予防ができる。

若年性の認知症と違い、アルツハイマーの認知症の方々は生活習慣病的なニュアンスがある。

### ○委員

認知症サポーターが全国的にいる一方、認知症サポーターの方々が家庭にボランティアで行ったら、安上がりになるという考え方が出てくることを想定している人もいる。

なかなか24時間365日は無理。丸投げという形は、市の保健福祉部としても留意していただかなければと思う。

#### ○部会長

国はなるべく在宅と言っているが、現実との整合性が欠けている。在宅でやれたとしてもその延長線上はどのようなのかということも考えると、施設介護ということも視野に入れないと、最期まで在宅というのは恵まれた環境。介護環境や経済状況を含め、自宅で死ねた人は極めて幸せな人。

#### ○委員

予算は収入と支出。道と国の交付金をそのまま丸投げ。帯広市民が小規模で生活し、いろんなところに知恵を出し、より家に近い、独自の視点を予算につけられないか。

他の部局との取り組みと合わせ、帯広市らしさを出すと、市民の方にアピールできるのではないか。

#### ○委員

老人クラブの趣味の会が23。それに関わって活動している人が約5千人。そこに入った人に、老人クラブにも入ってもらおうとしても、頑固に入らない人もいる。今は選択肢がたくさんあり、どうしても入らなければならないわけではないが、阪神大震災のとき、災害の立ち直りが早かったのは、老人クラブがしっかりしているところという情報がある。

交通事故はいろいろ規制され、件数は減っているが、自殺は依然として減ってはいない。認知症等も関係してくると思うが、自殺に関しての手立て等は、帯広市としてはやっているのか。

#### ○部会長

十勝保健福祉事務所に自殺予防審議会が通年あり、市も参加していた。東北のある地域では、特別にお年寄りの自殺が多い。そういうところでは、大学も含め行政と一緒に調査し、どういう対策を立てられるか、成果を上げたところがある。実は十勝管内も多い。最近が高齢者と熟年層も多い。周りに話を聞いてくれる人がいなかったり実際に身寄りもいなくなったり、そういう方々に訪問事業みたいなもので、どうやってカバーしていったらいいのか、すごく大切な問題。

#### ○委員

帯広市にどのくらい自殺者がいるのかわからない。

#### ○部会長

自分が出ている会議では、把握している。どういう対策を講じたらいいのか、行政も含め、どこでも大きなテーマになりうる。実は自殺を何とかしなければならぬと国が取り組んでいる。医者にかかる鬱の人がたくさんいるが、経済事情とか様々なことが相乗的に働いて、減らない。

#### ○委員

北海道で自殺予防のためのサポーターを養成し、その他にサポーター教室、話を聞いていرونなところに繋ぎ、紹介する様なサポーターを今後養成していくと聞いている。

#### ○事務局

生活機能評価、65歳以上の方に健診のときにチェックリストをやってもらい、鬱や閉じこもりの心配のある方も含め、ちょっとチェックすることで、行政からいろんな集まりの事業とか、訪問調査も出来るので、個別に案内をすることを22年度からやっしていこうというプランもある。

#### ○委員

地域でお年寄りの福祉をやっているが、現在進行中の困難な事例があり、地域包括センターや市の方が一生懸命やっただき、支援していただいているが、家族の方が遠くにいる人で、その方は、最近認知症を発症。介護保険の認定を受けておらず、今申請中。

包括の担当の方が来て、取り敢えず病院に連れて行ってくれているが、近々入院すると報告を受け、それまで自宅でということだが、家族の方は、一人暮らしのため、できれば施設にお願いしたいと連絡があったが、今待機者が多く、なかなか難しいとのこと。

取り敢えず入院なので、もし、それがある程度改善されて、自宅に戻ったとき、とても心配。

#### ○部会長

基本的には、在宅介護や単身者で生活が困難な状況になったとき、施設での順番を待つより、緊急性の高い方から優先順位を調査し、単身で明日にもどうなるかわからない場合は優先せざるを得ない。そういうシステムは、老人ホーム側にもある。緊急避難的に入所できる。まずは本人がどのような生活実態なのか、きちんと把握し、利用できるものとして、病院や特別養護老人ホームの緊急扱いになる。

#### ○委員

小規模等空いているところはいっぱいあると思う。稼働率が100%っていないところはあった。そういうところはだめなのかと思った。包括は自分の包括の中でと考えるのか。

#### ○委員

自分の事業のところはだめだけれど、他のところに繋ぐのが包括の役割。

#### ○委員

入所は難しいが、ショートをうまく使えば、1週間や3か月とか対応できる。毎日使うわけではないので調整しなければならない。うまい具合にはまると使える。

○委員

稼働率の低いところがあり、包括に無理を言っているのかどうか分からない。

○委員

無理は言っていない。

○部会長

そうでなければ緊急対応の要請に応えられない。その人が今どういう状態で、どんなサービスが必要なのかということを最優先。

○委員

それは家族が言った方がいいのか。

○部会長

誰が言っても構わない。近くにいる人が、実態がわかる。待てない事情があるわけだから。

○委員

今回は、取り敢えず入院待ち。地域としては心配。家の鍵を借りるわけにもいかないの、中でどうなっているかもわからないし、不安ばかりで辛い。

○部会長

恐らく市は、高齢者の訪問事業をしていると思うが、圧倒的にスタッフが少なく、カバーするには相当無理があると思う。

○委員

訪問看護の方は、相談員から報告を受けているが、入院決まったと言って、だいた待たないといけないのか。そういう場合はどういった方法があるのか。

○部会長

退院できる人がいないとだめ。やはり待つしかない。緊急避難的に、本入所にならなくても、ショートステイ等を利用する。うちは、原則は入院してから3か月経ったから退院してくださいとは言っていない。施設が決まるまではお預かりしますと言っている。

○委員

入院のペースはどのくらいか。

○部会長

一般の施設は女性が圧倒的に多い。認知症にまつわる暴力、家族はとて耐えられなくなる。男性が暴れたら手に負えない。暴れるばかりではなく、夜寝ないなど、せん妄状態等。その辺の介護状況が非常に厳しいのは、男性。

他は年寄り2人や一人暮らし、または生活保護の方を市の方が連れて来る。施設にスツと入れるものなら、その方がいい人達はたくさんいるが、集団に適用できるようにならないと施設に向かない。施設から入院する方もいる。

他になければ、その他であります、事務局から何かありますか。

○事務局

次回の日程について、8月ごろを考えております。

○部会長

今回は、8月ごろということで、近くなりましたら事務局からご案内をよろしく申し上げます。

他になければ、本日の高齢者支援部会はこれで閉会といたします。

大変お疲れさまでした。